基礎的・基本的な技術を身に付けながら、伝統と文化を継承する心を育む高等学校家庭科指導の工夫

ー日本の伝統模様「刺し子」を取り入れた活動を通してー

群馬県立新田暁高等学校
教諭　　高橋　みゆき

１　主題設定の理由

新学習指導要領では、改善事項の中に「伝統と文化に関する教育の充実」を掲げている。高等学校家庭科においても、各内容の中で伝統と文化について扱い、伝統を継承し、新しい文化を創造していく力を育てることが重要である。衣生活の内容においては、「和服の製作」や「和服の着装」などを授業に取り入れることが考えられる。しかし、「和服の製作」を扱うことは、授業時数と、生徒の技術的な面から難しい。そこで、基礎的・基本的な技術を身に付けながら、伝統と文化についても学ぶことができる題材として、「刺し子」を取り入れた授業を考案し、本主題とした。

２　生徒の実態

対象クラスとなる「服飾手芸」は、選択科目である。９名の２年生と、１３名の３年生が選択しており、この２２名を２クラスに分けて授業を行っている。３年生は、２年次の「家庭総合」の衣生活分野の授業において、被服材料、被服の構成、被服製作、被服整理について既習している。被服製作では、トートバッグを製作した。

本題材に関する生徒の実態を授業における教師の観察や事前の調査により、次のようにとらえた。

○「刺し子」を知っている生徒は、約 30%であるが、実際に「刺し子」の作品を作ったことがある生徒は、１人もいなかった。

○「刺し子をしてみたいか。」という質問に対して、約 70 %の生徒が「してみたい。」と答えた。「刺し子」でどんなものを作ってみたいかという質問に対しては、「クッション」が一番多く、次いで「ランチョンマット」、「テーブルクロス」、「コースター」、「エプロン」が続き、「巾着」、「エコバッグ」などは一人もいなかった。このことから、生徒は、外で持ち歩く物よりも、インテリアや家の中での生活で使える物を作りたいと思っていることが分かった。

○「伝統的な刺し子を大切にするべきだと思うか。」という質問に対しては、約 60 %の生徒が「思う。」と答えた。また、「刺し子の歴史について知りたいか。」という質問に対しても同数の生徒が「知りたい。」と、答えている。したがって、「刺し子」の種類や、特徴について知ると同時に、起源や変遷についても学ぶことが大切である。

○「刺し子」の他に、「服飾手芸」の授業で作ってみたい物について聞いてみると、「浴衣」という答えが最も多かった。本校では、「浴衣」は「服飾文化」の授業で取り上げている題材である。そこで、和服の構成についても学ぶことができる「刺し子のミニ作務衣」を題材として考えた。

３　題材観

「刺し子」は、布や糸が貴重だった江戸時代に、農村や漁村で仕事着や野良着として、より温かくするため、また、補強のために丁寧に一針一針刺し縫いしたのが始まりと言われている。当時の人たちの物を大切にする心と、生活の知恵から生まれた伝統的な手仕事で

ある。

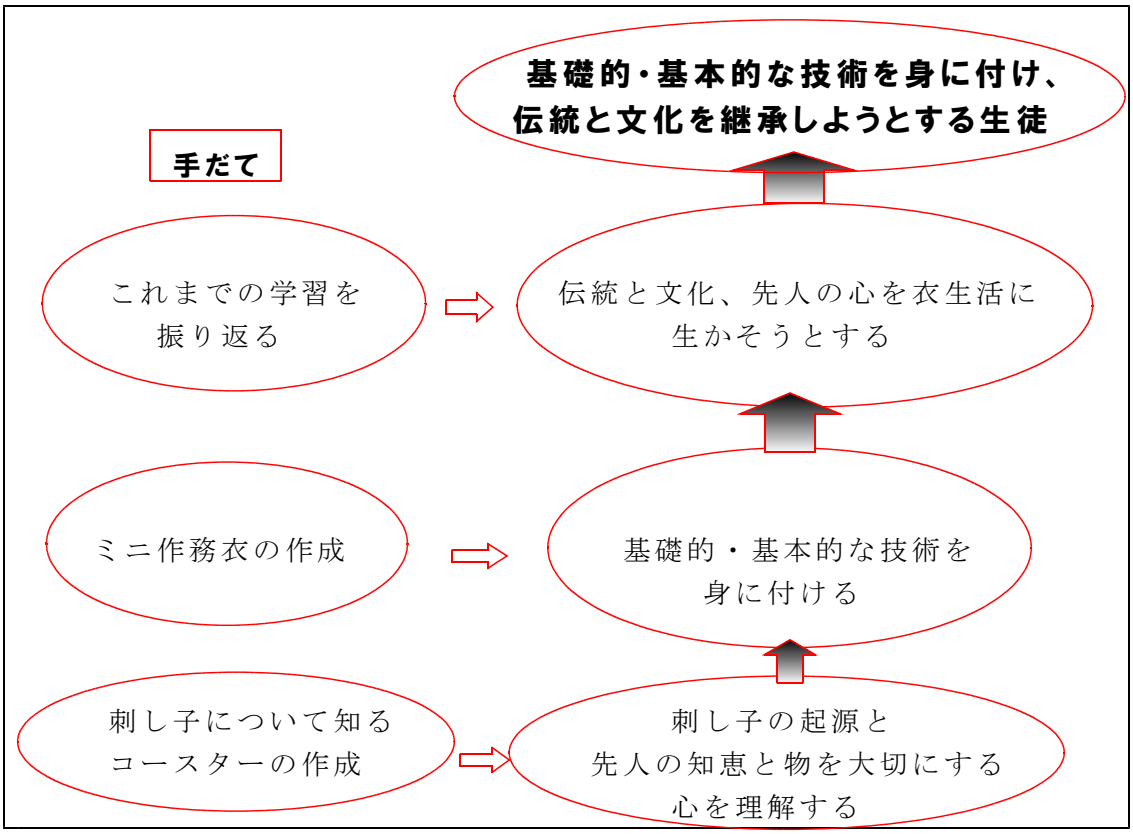
現在では、連続的な幾何模様の美しさを楽しむ手芸として親しまれているが、被服製作の題材として、基礎縫いの練習を兼ねて「刺し子」を取り上げている学校も多い。カラフルな糸や素材で、現代風にアレンジしたものや、キャラクターの形に刺していく市販の教材も多く見られるようになった。しかし、「刺し子」を題材として取り上げることで、生徒たちに身に付けられるものは、「運針の技能」だけではない。現在は、さまざまな化学繊維や、加工法が開発され、暑さ、寒さを防ぐだけでなく、目的に応じたさまざまな布地の衣服が手に入る。破れた布を補強して使うことも、使い古した布を別の物に縫い直して使うことも稀である。授業で使用した余り布を大切に持ち帰る生徒の姿も、ほとんどない。また、家庭において、祖母や母が、針仕事をする光景も少なくなり、雑巾までも既製品を買う時代になっている。一見、豊かになった衣生活で、忘れ去られがちな「物を大切にする心」や、「手作りの良さ」、「先人からの生活の知恵」、「伝統文化の継承」など、この題材を通して生徒たちに伝えられることは多い。

本題材では、まず、「刺し子」の作品の実物を見せ、その幾何模様の美しさで生徒たちを魅了していく。次に、なぜ先人が、布に一針一針この美しい模様を施すようになったのか、その歴史と変遷を説明することにより、日本の伝統文化の素晴らしさ、一枚の布を大切に愛用した心と、手作りの温もりを伝えたい。そして、「刺し子」を施した布で和服を作ることにより、その技術を習得し、創造力を働かせて服飾に活用する生徒をはぐくむことができる題材といえる。

４　ねらい

「刺し子」の特徴及び変遷、技法などに関する知識と技術を習得させ、伝統文化の良さに気付かせるとともに、服飾に活用する能力と態度を育てる。

５　基本構想図



6　評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
評価規準	「刺し子」の特徴及び変遷に関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいる。	「刺し子」における先人の知恵と、物を大切にする心を理解し、文化の伝承という観点から思考を深めている。	「刺し子」の実習を通して、基礎的・基本的な技術を身に付けるとともに、創造的に服飾に活用している。	「刺し子」の特徴及び変遷について理解し、そのよさを服飾に生かすために必要な知識を身に付けている。

7　指導計画（１２時間）

学習活動	指導上の留意点	評価項目
つかむ過程（３） ○「刺し子」について知る。		
・日本の伝統的な手仕事である「刺し子」の変遷について知る。	・「刺し子」の作品を見せ、一針一針の手縫いで模様が作り出されていることを知らせる。 ・なぜ、そのような地道な手仕事をするようになったのか、その起源について考えさせる。 ・「刺し子」の始まりが、当時の人の布を大切にする心と、生活の知恵によるものであることを知らせる。	・「刺し子」の作品に興味・関心をもっている。 **【関：観察・発言】** ・「刺し子」の起源について考えている。 **【思：観察・発言】** ・生活の知恵について理解している。 **【知：プリント】**
・現在の「刺し子」は、手芸として楽しまれていることを知る。	・代表的な模様の名前と由来を説明し、現在では、その幾何模様の美しさを楽しむ手芸として継承されていることを知らせる。	・模様の名前と由来について理解している。 **【知：プリント】**
・「刺し子のミニ作務衣」を製作することを知る。	・「刺し子のミニ作務衣」の見本を見せ、自分が作りたい作品のイメージを抱かせるようにする。	・「刺し子のミニ作務衣」に関心をもっている。 **【関：観察】**
・刺し子のコースターを作る。	・基礎練習として、今までの実習で余った布を利用し、自分で選んだ伝統模様を刺してコースターを作ることを知らせる。 ・模様の写し方、基本の刺し方を説明する。 ・机間巡視により、支援を行う。	・コースター作りに意欲的に取り組んでいる。 **【関：観察・作品】**
追究する過程（８） ○「刺し子のミニ作務衣」を製作する。		
・デザイン画を描	・自分の作りたい作務衣を考え、色、模様な	・「ミニ作務衣」作

く。 ・布を裁断する。 ・しるしつけをする。 ・布に模様を写す。 ・模様を刺す。 ・作務衣を仕上げる。	どを描かせる。 ・型紙の置き方が正しくできているか、一人ずつ確認をする。 ・チャコペーパー、ルレットの使い方が正しいか確認をする。 ・机間巡視で個別に支援をする。 ・特に、衿の付け方について重点的に説明し、机間巡視を行い、個別に支援をする。	りに意欲的に取り組んでいる。 **【関：観察】** ・「刺し子」と和服構成に関する基礎的・基本的な技術、知識が身に付いている **【技・知：作品】**
まとめる過程（１） ○「刺し子」の特徴、変遷、作品の製作について振り返る。	・「刺し子」の特徴、変遷についてプリントにまとめ、作品の製作についての感想、反省点を記入する。	・「刺し子」の特徴、変遷について理解し、伝統文化のよさに気付いている。 **【知・思：プリント】**

８　指導方針

「つかむ段階」

○さまざまな刺し子模様を実物の作品によって見せることで、その美しさと、時間と手間をかけた手作りのよさを実感し、関心をもてるようにする。

○なぜ、このような「刺し子」が生まれたのか、その起源を考えさせる場面では、いろいろな角度から当時の衣生活と現在の衣生活との違いを照らし合わせ、生徒が自分で答えを出せるように導いていく。

○代表的な模様とその名前を説明する場面では、それぞれの模様に、当時の人々の願いが込められていたことを伝え、「刺し子」が単なる刺繍ではなかったことを生徒が自ら気付けるようにする。

○「刺し子のミニ作務衣」を作ることを知らせる場面では、乳幼児の衣服としても、または工夫を加えることで、状差しなどのインテリアとしても利用できることを伝え、生徒自らが、創造的に製作できるように導く。

○基礎練習として「コースター」を作ることを知らせる場面では、今までの実習で使用した布の余りを利用することを伝えることで、当時の人々の布を大切にした心を生徒自らが、受け継ぐ気持ちになれるように導く。また、実際にかかる時間を先に伝えることで、負担に感じることなく練習に取り組めるようにする。

「追求する段階」

○「ミニ作務衣」のデザイン画を描く場面では、前時に学んだ模様とその意味を振り返らせるとともに、基礎練習で製作したコースターの経験を生かし、生徒が多角的に布の色や模様を選択できるようにする。

○作務衣に模様を刺していく場面では、机間を巡視し、一人一人の進度と技術を確認しながら支援していく。

○作務衣を仕上げる場面では、和服の構成についても触れ、じんべいや浴衣に応用できることを知らせる。

○衿の付け方については、実物の段階見本を用意して説明を行い、生徒が確実に理解出来るようにする。

「まとめる段階」

○プリントをまとめる場面において、自分の製作した作務衣について、模様を選んだ理由や、苦労した点、どのように使用するかを書くことによって、自分の作品に愛着をもてるように導く。

９　展開

題材　「刺し子のミニ作務衣　～手づくりの温もりを感じる日本の伝統模様～」

６月１日（火）第２校時　　３学年　８名

（準備）　・刺し子の作品
・余り布
・基本の図案
・チャコペーパー、ルレット、はさみ、ものさし
・実物投影機
・プリント

過程・ねらい	生徒の活動	支援及び留意点・評価
【つかむ】 １本時の学習内容を確認させる。 （５分）	○「刺し子」について知る。 〈予想される生徒の気付き〉 ・きれい。すごい。 ・とても時間がかかる作業だ。	○花刺し子のふきんや、コースターなどの実物を見せ、さまざまな模様が、一針一針刺していく地道な手仕事により、作り出されていることを知らせる。実物投影機により、模様の針目を見せる。 **「刺し子」に興味・関心をもっている。** **【関心・意欲・態度】観察・発言**
２「刺し子」の起源について考えさせる。 （７分）	○「刺し子」の起源・変遷について考える。 〈予想される生徒の気付き〉 ・昔は、布が貴重であった。 ・寒さを防ぐために、一針一針模様を施したなんてすごい。	◎なぜ、当時の人が、時間と手間をかけて、このような「刺し子」を行ったのか、理由を考えさせる。（生徒の様子を観察しながら、ヒントを与えていく） **「刺し子」の起源について考えている。** **【思考・判断】観察・発言** ◎江戸時代と現在の衣生活における豊かさの違いを説明し、貴重な布を大切に使うためと、防寒のために「刺し子」を行ったことを理解させる。プリントを記入させる。 **当時の人々の生活の知恵について理解している。** **【知識・理解】プリント**
３「刺し子」の模様について知る。 （８分）	○「刺し子」の模様の名前と由来について知る。 〈予想される生徒の気付き〉 ・ただ、見た目がきれいだからというだけでなく、模様に願いが込められているのか。	◎いくつかの代表的な模様の名前を知らせ、その由来を考えさせる。模様ごとに当時の人の願いが込められていることを知らせ、現在では、その幾何模様の美しさを楽しむ手芸として継承されていることを知らせる。プリントを記入させる。机間支援。 **刺し子の模様の名前と由来について理解してい**

		る。【知識・理解】プリント
4「刺し子」の作品を製作する。 （２５分）	○「刺し子のミニ作務衣」を製作することを知る。 ○練習として「コースター」の製作をすることを知る。 ○図案を写す。 ○模様を刺す。	○☆ミニ作務衣の見本を提示し、自分だったらどのような模様を施して、どんな作務衣を作りたいか考えさせる。 **刺し子のミニ作務衣について関心をもっている。** **【興味・関心・意欲】観察** ○基礎練習として、今までの実習で余った布を利用し、自分で選んだ伝統模様を刺してコースターを作ることを知らせる。その際、今までの学習を基にして、どんな模様を刺してみたいか考えさせる。 ◎布、チャコペーパー、図案用紙の置き方を実物投影機で説明する。その後、机間支援。 ○縫い初めを示範する。その後、机間支援。 **意欲的に取り組んでいる。** **【関心・意欲・態度】観察** **刺し子の基本的技術ができている。** **【技能・表現】観察** ◇糸の通し方、玉どめの仕方を支援する。
5本時の学習内容のまとめと後片付け。 （5分）	○本時の学習内容を振り返り、次時の学習内容を確認する。 ○後片付けをする。 ○あいさつ	○本時の学習内容をまとめ、今後の授業に対する意欲を高めさせる。

◎　重点をおいて支援する内容
☆　次時以降、深めたり広げる内容
◇　補充的な学習への支援

１０　結果と考察

（１）刺し子の起源を知り、先人の知恵と物を大切にする心について考えたことについて

導入として、さまざまな模様の刺し子の作品を見せた。生徒たちは、一針一針綺麗に刺された花ふきんや、コースターなどに感嘆の声を上げた。（図１）これらの幾何模様が地道な手仕事によって作り出されていることを知り、その魅力に引き込まれていった。針目を大きくはっきりと一斉に見せることに、実物投影機の使用がたいへん効果的であった。（図２）

図１　さまざまな模様の花ふきん

図２　実物投影機使用の様子

次に、なぜ先人たちは、このような模様を施したのか、その理由について考えさせ、一人ずつ発言させた。答えが思いつかない生徒に対しては、ヒントとして柔道着や帯を提示し、刺し子が施されていることによって、布の状態がどう違うか問うようにした。布や糸が貴重だった時代に、より丈夫に、より温かくするための生活の知恵だと知り、生徒たちは、当時の人々の物を大切にする心を学んだ。そして、刺し子の模様に意味があることを知らせ、それぞれの模様にどんな願いが込められているか考えさせた。授業後の生徒たちの感想は、次の通りである。

「昔の人たちが、布を大切にし、一針一針こつこつと縫ったことを知り、感動した。」「模様に願いが込められているなんてすごい。大きな愛情を感じた。」「手づくりは温かい。」「物をすぐに捨ててしまう自分のことを反省した。」「刺し子をずっと伝えていったほうがいいと思った。」「昔の人の知恵はすごい。物を大切にする気持ちと一針ずつ時間をかけて縫った努力を私も見習いたい。」

（２）余り布を使った刺し子のコースターを作成したことについて

前の授業で使った布の余りを利用して、コースターを作成した。（図３）普段、捨ててしまうくらいの小さな布を組み合わせて、糸の色を選び、各自で好きな模様を刺した。生徒たちは、「エコにもなる。」「自分で一針一針縫ったので大切にしたい。などの感想を述べた。

図３　余り布を利用した刺し子の
コースター

（３）**ミニ作務衣の製作について**

事前のアンケートでは、浴衣の製作を望む生徒が多かったが、本校では、「服飾文化」の授業で浴衣を製作している。また、「服飾手芸」は、高校で製作を経験している３学年の生徒と、製作をしていない２学年の生徒が混在している。そこで、和服の構成を短時間で学べるミニ作務衣を題材として選んだ。子どもの衣類としてだけでなく、状差しや小物入れとしてもアレンジできるようにした。まず、生徒たちは、刺し子模様の意味を考えながら、デザイン画を描いた。（図４）ミニ作務衣のできあがり見本を見せることによって、生徒たちが、イメージをつかみやすいようにした。（図５）生徒たちは、「かわいい。」と言いながら、意欲的に取り組んでいた。難しいと思っていた和服の製作が、意外と簡単であったという印象を持った生徒が多かったようである。

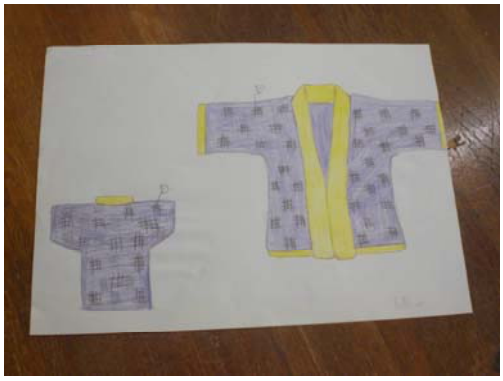


図４　ミニ作務衣のデザイン画

図５　状差しなどのインテリア
にもアレンジ出来るミニ作務衣

１１　成果と課題

生徒たちの感想から、「刺し子」の起源について学ぶことで、その技術だけでなく、先人の心を伝承していく大切さに気づくことができたと考える。今回は、選択科目である「服飾手芸」で設定したが、家庭基礎や家庭総合でも設定できることを想定して考えた題材である。少ない授業時数の中で、製作にかける時間は限られている。そこで、今回の題材をコースターを作るところまでにしたり、作務衣を他の物にアレンジすることで、２単位の授業でも設定が可能になると考えた。大切なことは、伝統と文化の紹介にとどまらせず、継承してきた人々の心を教えることである。「刺し子」を通して、基礎的・基本的な技術の習得と、伝統と文化を継承する心が育成できるであろう。

参考文献　刺し子の伝統模様　ブティック社
かわいい花さしこ　辰巳出版
刺し子の雑貨　辰巳出版